

第15期（令和7年度）

総会資料



日時	令和7年4月13日（日）18：30～
会場	清須市にしび創造センター 清須市西枇杷島町小田井一丁目12-1

日本ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区 第15期 総会次第

第一部 開会式

開会の言葉

司会 総務副委員長 田口

国旗儀礼、国歌斉唱

コミッショナー

協議会長挨拶

平野協議会長

スカウト紹介

コミッショナー

富士スカウト・隼スカウト

・富士スカウト章

今年度：対象者なし

・隼スカウト章

一宮 圭吾（春日井第2団）

高木 琢磨（北名古屋1団）

西脇 昂輝（日進第2団）

水野 樹（日進第2団）

得能 悠斗（日進第2団）

眞野 陽斗（日進第1団）

第二部 議案審議

議長選出

書記選任

総務委員会

総会成立確認

定足数確認報告

(議員数 名)

事務局

出席 名 委任状 名

議案

第1号議案 令和6年度事業報告の件

地区委員長、コミッショナー
各運営委員長

第2号議案 令和6年度決算・会計監査報告の件

事務局 会計係、監事

第3号議案 地区役員選任の件

地区委員長

第4号議案 令和7年度事業計画（案）の件

地区委員長、コミッショナー
各運営委員長

第5号議案 令和7年度予算（案）の件

事務局 会計係

第三部 閉会式

副協議会長 挨拶

佐々副協議会長

閉会の言葉

連盟歌斉唱

コミッショナー

国旗儀礼

コミッショナー

令和6年度事業報告

活動目標に沿って計画をしました。各団の皆様方にはご協力いただき、感謝します。

地区内全体では加盟員数は目標には届かず、増加に転ずることができませんでした。

日本連盟提案のワクワク自然体験遊びを20個団が実施され、また、5年度より実施しました団協議会には、各団委員長さんをはじめ団関係者の皆様に多数ご出席していただき、今後、さらに新しい仲間も増えるものと期待しています。

福島県磐梯青少年交流の家で開催されました第13回日本アグナリーに当地区からスカウト、指導者合わせ3名が参加しました。良い経験になりました。

尾張地区スカウトラリー2024は、小牧市市民四季の森でスカウト109名、指導者48名が参加し開催されました。当日、スカウト達は、いろいろな課題にチャレンジし班の結束を高め、個々のスキルアップをしました。このようにスカウトが、活動を楽しみながら自身が成長と成果を感じることができました。

第3回東海4県連盟合同野営大会（3TC）は、岐阜県高山市位山交流広場で開催され、当地区からベンチャースカウト32名、指導者等5名が参加し、他県、地区、他団の多くのスカウトと交流ができて楽しく過ごすことができました。

三河・尾張地域合同野営大会が蒲郡市で開催され、南海トラフ地震臨時情報が発表され、津波の心配など有りましたが、避難場所の確保をし、避難経路の確認をしながらの避難訓練を実施しました。暑い中でしたが、三河湾の海沿いで70人のスカウト、指導者がキャンプをしながら交流を図ることができました。

進歩については、各部門担当者の努力にもかかわらず遅れの目立つ状況で今後の課題として残りました。

団運営は、継続して少人数編成の団においては近隣団との合同集会などを提案し班制教育が継続的に展開できる様に支援してきましたが大きな成果を出すことができませんでした。

指導者へは、定型外訓練等を通じ自身の資質、成長する事が感じられる諸研修を提供しました。

社会貢献活動目標として、防災キャラバンの開催、ボランティアコーディネータ講習会、セーフ・フロム・ハーム研修等を通じて、啓蒙活動をしました。以上報告を致します。

事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

評価反省

1. 指導者の確保ができない、思うようにスカウト募集できない、などの状況を解決できず、1 個団減少となりました。委員だけでなく地区・団全員のご協力をお願いします。
2. はやぶさの一般向け紙面化について、取材・編集体制が整わず実現できませんでした。
3. 日連 HP 団情報ページにて、紹介文や画像の無い団は 1 個団減って 6 個団になりました。リンク先の HP が更新されていない等の状況もあり、委員会でも見て頂き改善を促進します。
4. 地区 HP をワードプレス版に移行しました。掲載内容のご意見を頂き拡充します。
5. ワクワク自然体験あそび、県連補助分は 17 個団実施、日連補助分は延べ 8 個団と地区で実施、地区体験行事補助は 4 個団実施でした。PR・募集の促進のため、来年度も取り組みます。
6. 尾張東地区スカウトラリーにて、ワクワク自然体験あそびブースを開設しましたが、来場者が少ない状況でした。次の機会には実行委員会に参画して改善に取り組みます。

スカウト進歩委員会

事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

評価反省

1. BS・VS部門進級目標達成度

- | | |
|-------------|-------------------|
| ①富士スカウト章修得者 | 0名（目標 3名/昨年度 2名） |
| ②隼スカウト章修得者 | 6名（目標10名/昨年度 3名） |
| ③菊スカウト章修得者 | 26名（目標20名/昨年度18名） |

技能章取得数

- | | |
|--------|----------------------|
| 査査員認定 | 36（昨年度 36 一昨年度 58） |
| 隊長認定 | 205（昨年度 98 一昨年度 146） |
| 宗教章取組数 | 神道章・仏教章（臨済宗、真宗大谷） 7名 |

昨年度と比べてBS部門の菊スカウト申請が多くなり、24名中BS部門進級数26名（うち新課程での申請者7）、VS部門の進級者3名と『本来あるべきBS部門での菊取得の傾向』が見受けられ、新進歩への移行途上を感じられました。一方で、隼、富士については目標数に及ばず、そもそものスカウト個々の中長期的な計画スケジュール、団内フォローの体制の問題点が見えるようになったといえると思われます。また、地区の面接では申請書記載の不備、記章類の着用の不備などが今年度も目立ったことから面接でのチェック・留意点等を委員会での会合を通じ改善に務めました。これら反省点を活かすため、来年度はVS隊長とスカウト進歩委員会とのフォロー体制、技能章講習会での参加基準等、足元の課題解決に向けた懇談の場を設定し、相互にコミュニケーション・理解を深め、改善をすすめていきたいと考えます。

2. BVS・CS部門進級

依然としてCS→BSへの上進時の退団の割合が高く、受験・制服の変更・野営生活への懸念などがトリガーになっているとの傾向を伺っていますが、各部門の進歩状況としては概ね「県連平均値以上」のレベルにあることを確認しています。合同集会・県連/地区ラリーなどを通じて切磋琢磨を図り、進歩の促進を行事・国際委員会とも継続して連携し進めていきたいと思ひます。

3. 技能章講習会の開催

【地区内開催】

- | | |
|--------------------------------|------------------------|
| 6月9日（日）パイオニアリング章講習会（於：犬山野活セ） | 13名（昨年度は申込2名で中止） |
| 8月下旬 | 消防章講習会 中止（自衛隊との調整難） |
| 12月8日（日）介護章講習会（一宮尾西生涯学習センター） | 1名（全体16名）
※尾張西共同初開催 |
| 12月22日（日）防災章講習会（於：春日井東部市民センター） | 5名（申込9名）
※今年度初開催 |

昨年度はスカウトジャンボリーの開催の影響で参加者も多く見受けられたが、一転、かなり少ない申込数となりました。また、受講態度については改善が見受けられた1年となりました。ただ、秋口以降はコロナ感染やインフルエンザ感染数の急増に伴い、病欠による急遽キャンセルが多く見受けられました。来年度は県連主催の技能章講習も多く開催されることから、より多くの参加を早期に呼びかけたいと思います。今年度は防災章を初めての試みで開催、介護章も尾張ブロック初の試みで開催することができました。

講師の方には感謝を申し上げます。現在国内各所で震災が発生していることや、国内でも「防災庁」が設置される予定もあることから防災章講習会は定例化も検討してきたいと思えます。

4. ベンチャー部門フォーラム

2年に1回開催される本イベントは、今年度「高校生年代×地域社会 ～私たちだからできること～」をテーマに6月8日(土)に犬山野外活動センターで開催しました。従来15名～20名程度の参加がありましたが、今回は残念ながら4ヶ団5名のみの参加でした。少人数でしたがローバースカウトのファシリテートにより活発な議論ができたと感じます。ここ最近では事前の団フォーラムが開催されなくなったことによる認知度の低下があり、開催時期の再精査をコミッショナーグループとも協議をし改善を図りたいと思います。8月の県連フォーラムへ地区選出2名の派遣を行いました。残念ながら兵庫県での全国フォーラムへの選出にはなりません。3月16日にはアフターフォーラムを開催しましたが、こちらも6名の参加と低迷しました。各団での具体的アクションをすすめ、また各団の取り組み発表の場を設けるなどコミッショナー陣とVS部門のさらなる活性化について今後も協働をすすめていきたいと思えます。

5. 定例会議(委員会)の活性化

6回開催、参加率 66.3% (昨年度66% 一昨年度72%)

昨年と同等の参加率となりました。残念ながら参加0の団が1ヶ団ありました。また、今年度からWeb開催をすすめ6回中3回をGoogleMeetで開催し運営(会議)費の削減に取り組み各委員利便性にも配慮いたしました。当地区のエリアは広域であることから委員会参加の往復移動だけでも負担になることからR7年度は原則Web開催、必要時のみ対面としその分講習会等の委員の奉仕の均平化と推進を図りたいと思えます。

指導者養成委員会

事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

評価反省

1. 地区内での指導者訓練はボーイスカウト講習会(定型訓練)2回、定型外訓練6回を予定しましたが、参加者不足で2開催が中止となり4開催となりました。

※ボーイスカウト講習会

9月開催21名、3月開催27名(当地区23名)参加者 計48名(当地区44名)

※WB研修所、団委員研修所

WBスカウトコース18名、課程別研修22名、団委員研修所2名、参加者 計42名

※WB実修所、団委員実修所

BVS実修所2名、CS実修所1名、団委員実修所2名、参加者 計5名

※ALTC1名 LTC1名 コミッショナー任務別3名

※地区定型外訓練49名

本年度の研修参加者数は当地区延べ145名になりました。

2. 保護者のボーイスカウト講習会参加者が、9月5名・3月15名でした。スカウト活動を知って頂ける機会を提供する場として継続して新規保護者の参加を促します。9月の講習会ではRSの参加者が約半数の10名でした。RSについては、WB研修所に参加できる環境であれば積極的に導く事が重要だと思います。
3. 指導者養成を促進するために、コミッショナー、トレーニングチームと協働して参加しやすい訓練内容および楽しい訓練方法について協議をして効果的に訓練が出来る運営環境を提供して行きます。

事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

評価反省

各国からの野舎営届（県外旅行申請書）が、総数で 184 件を超え、昨年度（183 件）を超えた結果となりました。

また、委員会で計画した事業には全て取組み、ほぼその目標を達成することができました。

1. 日本連盟・愛知連盟が主催する事業等

- ・愛知スカウトフェスタ（10月6日）へ、委員2名が奉仕しました。
- ・どんぐり交流会（11月10日）には、委員3名が奉仕しました。
- ・未来の森づくり事業（11月17日）へは、委員2名が奉仕しました。
- ・県連盟新城吉川野営場の整備（7月21日）に、委員及び支援者が7名で奉仕しました。
- ・「緑の募金」「スカウトの日」活動を支援援助しました。

「緑の募金」17 個団が実施し、募金総額（301131 円）を県連へ納付しました。

「スカウトの日」14 個団が実施し、日本連盟へ報告しました。

※次年度には、全国での実施を支援いたします。

2. 地区内事業等

- ・三河尾張合同野営大会（8月10日～15日）

西浦海岸で開催された三河地域との合同野営大会へ、事前の準備（草刈り等）から期間中の奉仕（野営管理）迄、委員及び支援者延べ 20 人が奉仕いたしました。

- ・尾張東地区スカウトラリー（11月3日）

小牧市市民四季の森で開催された BS 部門ラリーに、実行委員として事前の許可申請から当日の運営まで、委員 6 名が奉仕しました。

3. 各国より「野舎営届」「県外旅行申請書」「活動計画書」の提出を受け、内容確認の上県連へ提出し承諾を得ました。（184 件）

計画書の中に「安全管理者」の記載は、ほぼ全団されてきましたが、野営の場合の「緊急避難場所」の確保について、まだまだ不十分かと評価しています。次年度は、この点を強化致します。

4. 委員会活動の活性化を図るため全国の「行事活動報告」を委員会の中で実施しました。

報告内容は、次年度の各国行事プログラムに活かされていくと期待します。

5. 県連行事国際委員会へは年 5 回の参加、地区内行事国際委員会は 5 回の開催を致しました。

総務委員会

事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

評価反省

1. 今年度の SFH セミナー参加者は、総数 15 名でした。年度途中で、基本編と実践編が日連より提示されましたが、隊長中心に実践編で開催。地区としては、団委員長・各隊指導者の参加がひと通り終了と思われます。次年度は、総務委員会の勉強会も兼ねて開催します。

2. 全国防災キャラバン 10 月 27 日イオン春日井ショッピングセンターにて開催。

参加者は 103 名と少なめでしたが、地域連携を進めるためにも次年度も開催します。

3. 防災ボランティアコーディネーター養成講座へは地区からは参加者 2 名でした。

また、防災士の育成については、県連盟の補助事業でしたが、育成までには至りませんでした。

4. 事故報告 3 件。各国の危機管理体制整備を進めてもらいました。

事業報告

主催事業

総会・第1回定例会	小牧市中部公民館	参加者：19名
第2回定例会	日進市五色園第一集会場	参加者：19名
第3回定例会	春日井第5団羽黒ベース	参加者：14名
第4回定例会	小牧市青年の家	参加者：11名
尾張東西地区	愛知学院大学	参加者：11名（当地区）
ローバース合同運動会	日進キャンパス	（実行委員含む）
冬季アクティビティ	高鷲ダイナランド	参加者：8名
奉仕		
こまき山おやこラリー	小牧山	奉仕者：9名
スカウトフォーラム	犬山市野外活動センター	奉仕者：11名
三河尾張野営	蒲郡市西浦海岸	奉仕者：9名
せともの祭	旧瀬戸市立深川小学校	奉仕者：2名
スカウトラリー		
全体プログラム	小牧市民四季の森	奉仕者：6名

	登 録 者 数	総会・ 第1回 定例会	小 牧 山 親 子 ラ リー	ス カ ウ ト フ ォ ー ム	第2 回 定 例 会	三 河 尾 張 野 営	せ と もの 祭	第3回 定 例 会	ス カ ウ ト ラ リー	第4 回 定 例 会	運 動 会 （ 実 行 委 員 ）	運 動 会 （ 参 加 者 ）	冬 季 ア ク テ ィ ビ テ ィ
犬山第5団	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
犬山第7団	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
大口第1団	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
江南第3団	9	4	2	3	4	3	0	4	2	2	1	1	3
清須第1団	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
北名古屋第1団	5	0	0	0	2	0	0	2	1	1	2	0	0
北名古屋第2団	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
瀬戸第1団	2	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0
瀬戸第6団	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
長久手第1団	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日進第1団	3	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0
日進第2団	5	2	2	2	4	1	0	1	1	1	1	0	1
小牧第1団	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小牧第2団	7	1	4	3	3	1	0	3	1	2	1	2	2
春日井第2団	9	5	1	3	3	3	0	2	1	3	0	2	1
春日井第4団	16	5	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
春日井第5団	3	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
春日井第8団	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0
春日井第10団	8	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0
計	97	19	9	11	19	9	2	14	6	11	6	5	7

評価反省

1. 4 回の定例会の中で、RS 年代を取り巻く課題を解決できるようなプログラムを実施しました。
2. 主催事業、地区事業奉仕にのべ 30 名の参加がありました。例年より参加率は上昇しましたが、参加者の固定化が課題となりました。

コミッショナーグループ

事業報告

別紙 事業・活動報告の通りです。

評価反省

【コミッショナー】

スカウト数減少に歯止めがかかっていない。スカウトの「たのしい」を向上させるために指導者のプログラム作成能力のための研究を RT 内で取り組んできた。どの部門も 5 割～6 割ぐらいの参加率であるため、RT の参加率充実度をあげるような中身にしていく必要がある。定型外訓練に関しては参加者が少なく流れてしまったものがあった。来年度は参加者の負担を減らすためにも RT 内に組み込んで実施していく。また実施する時期も考慮して組み立てていく。保護者の「満足度」をあげる指標の一つに個人の進歩があるが、一つでも多い、木の葉章や チャレンジ章、一つでも上の級に進進できるような取り組みに取り組んできた。VS 部門では当初の予定ほど進級が進まなかったこともあり、来年度は進歩に特化した定型外訓練を実施していく。定型訓練の参加は多くの方に参加していただけた。特にローバー年代から多くの参加者があり、若い指導者の育つ機運が高まりつつある。地区のトレーニングチームもなかなか新規スタッフが増えていない現実があったが、来期からは新たなスタッフを 3 名入れて若返りを測っていく。

【BVS部門】

初年度計画に沿っての実施としてプログラムの立案を軸として行う予定であったが、BV S 部門における活動の基礎的要素の欠如が見られたため、内容を修正しての取り組みとした。ボーイスカウトの一部門として指導者が必ず考えなくてはいけないことや、楽しいプログラムの中で何を含ませ、隊長の想いを組み入れるのかなど、プログラム立案時に考えなければいけないことを中心にした研修とした。

スカウト教育法、部門としてのSFH等を研修いただいた中で、各隊隊長の自隊スカウトに対する愛情が感じられたのは、訓育を通してスカウトの成長を図る指導者としての「やさしさ」を感じることが出来た。これはBVS部門指導者としての希望の光を感じることが出来た。ただし、個々に事情があることは推察するが、RTに参加できない隊長が非常に多い部門であり、このことは隊長を選任する団の責任として、指導者の選任を考慮していただきたく思う。

BVS部門は指導者の力量が問われる部門ですので、しっかりと研修はしていただきたく思います。

【C S部門】

一昨年から課題となっている月の輪スカウト活動では、地区内のほぼ全隊が修了との報告だったが、本年度も上進後にすぐに初級認定されていない隊が多くみられた。この状況を改善させるため、月の輪集会の現状と課題を抽出し、カブ部門主体で実施できる「月の輪集会の手引き」を作成し展開ができた。

本年度実施した3回のアンケートから正しいプログラムプロセスが実施できていないと回答する隊長が多く、隊長一人で抱えてしまっている傾向がある。この状況では、新しいアイデアや魅力あるプログラムには繋がらないことから、近隣団との合同集会開催の支援や通常の隊訪問ではない支援方法を検討していきたい。

【B S部門】

8月に開催された三河地区・尾張地区合同野営大会への参加をとおし、若手指導者を中心に編成隊運営、プログラム開発・実施からのノウハウの蓄積が進み、各隊指導者の様々な技能向上を図れたことは大きな成果であったと評価している。

また、11月に実施した第2回スカウトラリーの運営においては、各隊指導者が協働しながらポイントプログラムの開発・運営に取組み、指導者間の連携や技能向上にも資することができたと評価している。

一方、ラウンドテーブルでは他部門との連携は進まず、菊章取得に向けたポイント整理や効果的な隊長同士の研鑽においては十分な成果をあげられず課題が残った。

【V S部門】

進級に関しては、富士スカウト章0名（目標3名：0%）、隼スカウト章6名（目標10名：60%）であった。隼スカウト章への進級が少ないので、必然的に富士スカウト章への進級はありませんでした。新旧の進級課目のスカウトが在籍する中で、現場の隊長方も苦勞をしているように感じられた。次年度は新課程のスカウトだけになるので、しっかりと進級課目の研究を行い、隼スカウト、富士スカウトが輩出できるよう支援してまいります。

行事に関しては、ベンチャースカウトフォーラムやベンチャースカウトの集い、技能章講習会等スカウト達が集まれる場を設定しましたが、参加人数が少なく、また、参加していただける団に偏りが出ている。日程設定や内容を再度検討し、集まりやすい環境を作るとともに、尾張富士特別野営に向けて、地区ベンチャーを活性化させていきたいと思います。

【R S部門】

これまでRT参加率が極めて悪かったが、今年度は年間を通しておよそ50%の参加率を維持した。その中でローバーリングの在り方や日連から提供される資料の活用、RS活動を促進させるためのサポートの方法などについて研究を行い、地区ローバースとしての活動の活性化を進めたが、依然として年間を通してRTへの参加が得られない団が存在する事も事実であり、RSを支援する隊長をどのように選任し、スカウトに対して支援しているのかを、団として真剣に考えて取り組んでいただきたい。

【団 担 当】

1. 団訪問、情報提供及び団委員長サミット等による団活性化の支援のために団協議会を年5回開催。
5/18 17団33名 7/6 18団37名 10/5 団サミット 全団48名 12/7 17ヶ団39名 3/8 17ヶ団 41名
2. 団協議会にて団審査資料の分析から各団の講評、地域との連携事例発表、団の進歩向上に向けて等発表を頂きました。
3. 団委員長サミットにて、前年の団審査により提出された団の施策・目標の進行状況確認。目標の修正を設定頂きました。

事務局

事業報告

1. 地区委員会／団委員長会議、他会議の招集開催を致しました。
 - ・地区委員会 9回開催
 - ・団委員長会議 2回開催
2. 会議資料作成などの事務作業を行いました。
 - ・県連等による配布資料の分配、情報伝達のペーパーレス化を推進しました。
3. 行事費、登録費等会計に関わる資金管理を致しました。

評価反省

1. 地区への情報展開を速やかに行い諸事項について各委員会との協働で遅滞なく各団宛展開することができました。

第2号議案 令和6年度決算・会計監査報告の件

1. 一般会計

(単位円)

<収入の部>

科 目	予 算	決 算	摘 要
1 前年度繰越金	133,831	133,831	
2 地区費(継続登録)	1,021,600	1,021,600	20,000×20 団+600×1,036人
3 地区費(追加登録)	50,000	31,200	追加登録 57 人(前期42人、後期15人)
4 県連回付金	150,000	268,841	
1) 訓練研修費	30,000	32,000	BS講習会
2) 緑の募金還付金	20,000	6,841	緑の募金補助金
3) その他還付金	100,000	230,000	ワクワク事業(日連補助 3万円、県連20万円)
5 雑収入	10,000	41,487	利息他
6 積立金から取り崩し	100,000	100,000	
合 計	1,465,431	1,596,959	

<支出の部>

科 目	予 算	決 算	摘 要
1 訓練研修費	350,000	301,839	
1) 指導者講習会・研修会	20,000	20,137	BS講習会、各研修会支出ー参加費 (159,637ー139,500)
2) スカウト技能章講習会	30,000	5,742	技能章講習会支出ー参加費 (36,742ー31,000)
3) コミッショナー研修会	300,000	275,960	研修費、研修所参加費、LT&ALT 各派遣
2 行事費	140,000	295,807	
1) 組織拡充支援金	100,000	250,000	ワクワク事業(地区対象4団)
2) ベンチャー行事費	20,000	7,385	
3) ローバー行事費	20,000	38,422	
3 事業費	865,000	618,452	
事業費			
組織・拡充委員会	50,000	29,248	HP 維持費(23,971)
指導者養成委員会	40,000	21,990	旅費、活動費、資料代他
スカウト進歩委員会	100,000	78,604	"
行事・国際委員会	100,000	32,097	尾張富士、活動費、資料代他
総務委員会	80,000	37,961	防災キャラバン、旅費、活動費、資料代他
コミッショナー	300,000	245,897	トレーニングチーム経費、救急チーム経費、旅費、資料代
事務局	20,000	21,625	総会資料作成、スカウトあいち掲載料 (12,000)
運営費			
会議費	150,000	120,140	会場使用料
事務・通信費	15,000	10,890	振込手数料
慶弔費	10,000	20,000	江南第3団、日進第1団 50周年
4 備品購入積立金	0	50,000	資材、機材、備品
5 大会関係積立金	0	150,000	日連、県連各大会
6 大会支援金	100,000	91,784	3TC
7 繰越金	10,431	89,077	
合 計	1,465,431	1,596,959	

2. 特別会計

科 目	前年度残高	R6年収入	R6年支出	次年度繰越	摘 要
1 備品購入積立金	538,830	50,000	0	588,830	
2 大会関係積立金	1,101,000	150,000	100,000	1,151,000	大会準備金
合 計	1,639,830	200,000	100,000	1,739,830	

令和 7 年 3 月 29 日

監査報告書

日本ボーイスカウト愛知連盟
尾張東地区協議会
協議会長 平 野 嘉 彦 殿

日本ボーイスカウト愛知連盟
尾張東地区協議会

監 事 河合正治

監 事 宮崎洋介

私は、令和6年度の決算において、帳簿並びに関係書類の監査を行った結果、
収支決算書は会計帳簿の金額と一致し、尾張東地区の収支状況及び財産状態を正
しく示しているものと認めます。

以上

第3号議案 地区役員選任の件

役 務		氏 名	所 属
顧問		船 橋 鐸 夫	小 牧 第 1 団
		中 村 隆 二	春 日 井 第 2 団
		横 江 昭 憲	日 進 第 2 団
協議会長		平 野 嘉 彦	北 名 古 屋 第 1 団
協議会副会長		井 上 勲	小 牧 第 2 団
		佐 々 由 高	犬 山 第 7 団
		岩 田 秀 雅	春 日 井 第 8 団
地区委員長		岩 花 竜 章	清 須 第 1 団
地区副委員長		中 谷 洋	小 牧 第 1 団
		志 水 幹	日 進 第 2 団
地区参与		河 村 武 人	北 名 古 屋 第 1 団
		中 村 倫 之	小 牧 第 2 団
		古 木 啓 介	小 牧 第 1 団
		日 比 野 良 治	江 南 第 3 団
地区コミッショナー		石 川 圭 祐	北 名 古 屋 第 2 団
地区副コミッショナー	BVS	鈴 木 寛	春 日 井 第 5 団
	CS	柴 田 賢 一	北 名 古 屋 第 2 団
	BS	安 田 直 樹	日 進 第 1 団
		小 川 恭 平	瀬 戸 第 1 団
	VS	水 谷 優 介	春 日 井 第 2 団
	RS	小 川 恭 平	瀬 戸 第 1 団
団担当コミッショナー		椎 葉 育 美	江 南 第 3 団
		植 木 治 雄	北 名 古 屋 第 1 団
		小 林 志 穂	春 日 井 第 2 団

組織・拡充委員会	委員長	石 原 昌 幸	江 南 第 3 団
	副委員長	渡 邊 誠	長 久 手 第 1 団
指導者養成委員会	委員長	森 裕 次	瀬 戸 第 6 団
	副委員長	藤 井 孝 之	小 牧 第 2 団
スカウト進歩委員会	委員長	小 林 弘 幸	春 日 井 第 8 団
	副委員長	八 橋 隆	江 南 第 3 団
	副委員長	山 内 篤	春 日 井 第 1 0 団
行事・国際委員会	委員長	伊 吹 登	長 久 手 第 1 団
	副委員長	石 川 博 幸	日 進 第 1 団
	副委員長	三 浦 浩 嗣	春 日 井 第 4 団
総務委員会	委員長	植 手 厚	北 名 古 屋 第 2 団
	副委員長	田 口 澄 雄	瀬 戸 第 6 団
	副委員長	中 村 行 伸	春 日 井 第 4 団
	副委員長	大 谷 茂	北 名 古 屋 第 1 団
事務局	事務長	間 下 伸 一	清 須 第 1 団
	副事務長	中 村 里 美	北 名 古 屋 第 2 団
	会計係	青 木 正 士	春 日 井 第 4 団
ローバース代表委員		岩 瀬 朋 朗	小 牧 第 2 団
監 事		河 合 正 治	大 口 第 1 団
		宮 崎 洋 介	犬 山 第 5 団

任期 令和7年4月1日～令和9年3月31日

令和7年度地区運営方針

1 運営方針

愛知連盟の方針及びプログラム等を地区内で効果的に実施し、スカウト活動が円滑に進める事ができるように支援を強化し、スカウト訓育・指導者養成に向け取り組みます。

青少年に幸福な人生を歩んでもらうため、より良い地域社会づくりをめざし、社会と協働した取組みを計画的に推進し団及び各委員会を積極的に支援します。

2 目標

(1) スカウト数の増加に向けた具体的な施策の実施

①中途退団者をうわまわる新規入団者の獲得を目指す施策を支援します。

②野外活動をとおしてスカウト運動の意義を理解、展開するための団支援をします。

(2) スカウトが自分の成長と成果を実感し意欲を高める場所を提供し全ての団から、「菊・隼・富士」取得者を目指します。

①BS・VS部門への高度な野外プログラムを社会と協同して支援の充実をします。

②BVS・CS部門への年代別プログラム支援の充実をします。

③プログラム支援を充実させ中途退団の減少を目指します。

(3) 指導者育成の充実

①スカウト教育法を再確認しウッドバッジ研修所・実修所の参加啓蒙をし、一貫支援（担当制）をし、指導者として資質向上を目指します。

②冒険的な野外活動や国際プログラムをスカウトへ適切に指導提供できるグローバルリーダーの育成をします。

③人間力向上を目指し定型外訓練への参加を促すだけでなく社会人としての資質を高め、魅力ある指導者の養成をします。

3 重点施策

(1) 日本連盟・愛知連盟主催「海外派遣事業」・「国内事業」等に向けた支援

①第19回日本スカウトジャンボリーに向けて支援態勢を強化します。

②自然体験活動事業への積極的な取り組みを支援します。

③SCOUTS for SDGs・アーストライブへの取り組み目標達成のために支援を推進します。

④尾張東地区内で開催される愛知スカウトフェスタに協力をしていきます。

(2) 「班（組）活動のできる」団に向けた対応を推進

①広域的な範囲で少人数団（隊）への他団との交流、合同集会を推進します。

②団訪問、団協議会などにより団への支援を強化します。

③スカウト数、指導者数増加のため、全団参加の団協議会を開催します。

(3) 実効性のある指導者研修

①定型訓練・定型外訓練への参加を啓蒙し地区主催定型外訓練の充実をします。

②継続的にインサービス・サポートの推進をします。

③ラウンドテーブル・運営委員会を研修の場として活用します。

④活動に必要な外部団体資格取得を支援します。

(4) 危機管理体制の充実強化

①セーフ・フロム・ハームに関わる対策を強化します。

②防災士・防災ボランティアコーディネーターの養成支援をします。

4 各運営委員会事業計画

別紙資料の通りです。

行事計画と役割 (案)

行事・会議	各組織の機能	メンバー	関連施策番号	活動内容
1 運 営 委 員 会	1-1 組織・拡 充 委員会	委員長 副委員長 各団委員	目(1)-①	加盟員募集について、運営委員会だけでなく、団担当コミと連携し団協議会等でも取り組み依頼します。
			目(1)-①	地区誌はやぶさを編集・発行します。 スカウトあいち地区・団コーナーも積極的に原稿募集します。
			目(1)-①	SNS等でのPRについて、運営委員会などでノウハウ共有を図ります。
			目(1)-①	問合せ窓口として有効な日連 HP 団情報ページの活用・更新を推進します。
			目(1)-②	ワクワク自然体験あそび等の勧誘行事を促進します。
	1-2 スカウト 進歩委員会	委員長 副委員長 2名 各団委員	目(2)	新進歩課程の定着と支援【継続】
			目(2)①	菊スカウト章30名、隼スカウト章5名、富士スカウト章3名の輩出と地区面接の実施。【継続】
			同上	技能章講習会参加対象枠の見直しによる進歩促進【新規】
			目(2)-①②	本来あるべきスカウト全員の進歩把握とフォロー【新規】
			目(2)	団・地区面接の在り方見直しと申請書研究、VS 隊長との懇談会【新規】
			目(2)-③	全委員の奉仕均等化【新規】
	1-3 指導者養成 委員会	委員長 副委員長 各団委員	目(3)-①	ウッドバッジ研修所・実修所の参加が不安なく出来るよう、トレーナーが一貫した支援が出来る環境をコミッショナーと協働で作り、指導者の資質向上に努めます。
			目(3)-②	日本連盟、県連盟の事業及び他の委員会などの情報を積極的に発信し、参加を促しスカウトの指導が出来るグローバルリーダーの育成に努めます。
			目(3)-③	定型外訓練のみで無く人間力、資質向上に繋がる他団体、個人の研修及びセミナー等の情報を提供し積極的に参加することを促し、社会人としての資質アップに寄与します。
			重(3)-②	定型訓練、定型外訓練のみでなく他の活動においてもコミッショナー、トレーニングチームと協働して継続的に支援をします。
			重(3)-③	ラウンドテーブルの場を活用して部門に特化した研修を、コミッショナー、トレーニングチームに提案をして支援をします。
			重(1)①	日本連盟・愛知連盟主催「海外派遣事業」・「国内事業」の広報と参加に向けた支援を行います。 第19回日本ジャンボリーに向けて、諸準備を開始します。
	1-4 行事・国際 委員会	委員長 副委員長 2名 各団委員		地区内の事業に向け、積極的な支援参加をいたします。
			重(1)③	「緑の募金」「スカウトの日」活動参加と支援を行います。
			重(3)③	活気ある運営委員会を実施します。 具体的には、委員会の中で各団の活動報告を行います。
			重(4)	安全管理活動として「野舎営届」「県外旅行申請書」の提出管理を行います。各団野舎の場合の緊急避難場所の確保を支援指導いたします。

	1-5 総務委員会	財政確保と行政 対応等他の委員 会に属さない事 項への対応	委員長 副委員長3 名 各団委員	目3-③	全国防災キャラバンを開催します。
				重3-④	地区（尾張ブロック）でのS f Hセミナーの開催しま す。
					防災士の育成、養成をします。
					防災ボランティアコーディネーターを養成します。 各団・各隊の危機管理体制の整備。（各団の広報担当者 も含む）
2	尾張東地区 ローバース FRONTIER	RS 対象の活動 および情報交換	地区内の RS および 同年代の青 年指導者	目(1)①	全構成員の20%以上の参加者を集め、RS 間の仲間の 輪を広げることのできる定例会を開催します。
				目(3)③	地区ローバース幹部メンバー以外にも、構成員の10% に地区ローバース主催事業や関連事業に参画を促し、企 画、計画のノウハウを得る機会を設けます。
				重(3)①	構成員の10%以上のWBSC 新規修了を目指すため に、定例会にて各研修修了者から未修了者の構成員に活 動報告の場などをもつることによって指導者訓練への 参加を促します。 構成員が今日までに培ってきた知識・技能を後輩スカウ トへ伝えるために、指導者としての活動を奨励します。
3-1 地区コミッ ション	規定の遵守とス カウト教育の純 正な推進のため の教育及び指導	コミッショ ナー 地区トレー ニングチー ム 地区救急チ ーム	目(1) 目(2)	自ら行動し、自己の成長を進歩という形で実感し、仲間 や保護者と喜びを共有できるようなスカウトを育成でき るように、各隊指導者への支援を実施します。	
			目(3)	若手指導者の育成およびWB実修所参加への推進と支援 の充実を目指します。	
			重(2)	ピーパーカブラリー、スカウトラリー、尾張富士特別野 営など合同集会が実施できる環境作りを行い、実施を目 指します。	
			重(1)①	第19回日本ジャンボリーに向けての実行委員会を立ち 上げ、参加に向けて支援していきます。	
		3-2 BVS 部 門	副コミッシ ヨナー1名 個隊指導者	目(2)②	RT の中で魅力的なプログラムの作成ができるよう、交 流と研究を行います。
				目(2)②	引き続き隊訪問を行い、各国の状況に応じた支援を行 います。 地区ラリーの参加に向けた支援を行います。
		3-3 CS部門	副コミッシ ヨナー1名 個隊指導者	目(2)-② 重(3)-③	RTにおいて、カブ部門として魅力ある楽しいプログラ ムが展開でき、正しいプログラムプロセスの理解に繋がる 研修・研究を行います。
				重(2)-①	広域的な範囲で少人数団（隊）への合同隊集会の実施に 向けたプログラム立案と開催に向けた支援を行います。
				重(3)-②	継続的なインサービス・サポートとし隊訪問を実施しま す。各隊の状況把握から活性化に繋がる支援を行ってい きます。
		3-4 BS部門	副コミッシ ヨナー2名 個隊指導者	目(2)-③ 重(2)-②	各隊での班活動における基準の維持と充実、班長訓練を 活用したスカウトの自主性の確立を図るため、個別の隊 訪問やラウンドテーブルでの研修等を通じて、各隊を支 援します。
				重(2)-①	少人数団への対応、隊指導者のプログラム開発技能支援 のため、隊指導者を中心に企画運営する第3回「スカウ トラリー」を12月に実施します。
				重(3)-③	ラウンドテーブルを年間8回開催します。その中で隊指 導者の技能訓練や班長訓練の実施方法の研究などをおし、 充実した班活動の実施につながる支援を実施してい きます。

	3-5 VS部門	規定の遵守とスカウト教育の純正な推進のための教育及び指導	副コミッショナー1名 個隊指導者	目(2) 重(3)-①③	スカウト進歩委員会の掲げる進級目標を達成できるよう、ラウンドテーブル内で進級課目に関する研修・研究を行うとともに、トレーニングチームの協力を得てVS部門に特化した定型外訓練を実施します。
	重(1)-③			前年度の「尾張東地区アフターフォーラム（ベンチャースカウトのつどい）」での検討に基づき、代表スカウトを中心として地区内のベンチャースカウトの企画により環境に関する行事が実施できるよう隊指導者とともに支援を行うとともに、スカウトたちの集まれる場を計画的に作ります。	
	目(2)-①			尾張ブロック行事として「第2回尾張富士特別野営2026」を開催します。スカウト同士の交流とハイレベルな野外活動を柱として展開し、「魅力あるVS活動」を見える形でスカウトに示し、スカウト自身が成長を実感できる活動を隊指導者とともに実行します。	
	3-6 RS部門		副コミッショナー1名 個隊指導者	重(1)③ 重(3)① 重(3)③ 重(4)①	年4回RTを開催し以下の事項に取り組む ・RCJ,ARC,地区ローバースの活動情報と方向性の共有および促進 ・セーフフロムハームに関する研修 ・SCOUT for SDGs やアーストライブへの取り組みに関する研修 ・ローバースカウト部門とローバーリングについての理解促進と研究 ・各団でのローバースカウト年代の活躍促進とサポート方法の研究 ・定型・定形外訓練へのローバースカウトの履修促進
				目(3)① 目(3)③ 重(3)① 重(4)②	地区ローバースアドバイザーとの協働により以下の事項に取り組む ・地区ローバースの活動を通して、地区内すべてのローバースカウトが、必要な知識・技能・心構えを備え、自身が今取り組むべきことに注力できる魅力的なスカウトを育成する。 ・ローバースカウト各自の将来を見据え、ローバースカウトの定型・定形外訓練履修を奨励し今後の指導者の育成につなげる。 ・ローバースカウトの防災ボランティアコーディネーター養成講座への参加を奨励する。
				目(2)③	地区行事においても他部門と連携しながらローバースカウトが参画することで、ローバースカウトが他部門のスカウトの前で積極的に活躍する機会を設け、VS以下の年代の上進意欲を高め、中途退団者の低減に寄与する。
4 団担当コミッショナー	地区内の団の情報を、団委員長とのコミュニケーションを密にして収集し、団運営を支援する	団担当コミッショナー6名	重(1)-②	文科省事業を含む募集活動計画の確認と必要な支援の手配：全団	
			重(2)-③	団協議会・団サミットをスタッフと協同して取組みます。	
			重(2)-②	スカウト数カテゴリーD(ランク1)の団の活動に支援：4個団	
5 事務局	地区全般事務関連業務	事務長 副事務長 会計係		1. 地区協議会(総会含む) 年2回、団委員長会議 年3回、地区委員会 年9回開催します。	
				2. 危機管理委員会を開催します。	
				3. 地区財政・財務管理、表彰関連、資料管理をします	
				4. 各委員会と協働し資料作成など事務作業をします。	
				5. 県連情報伝達等による配布資料の分配、情報伝達のスピード化を図ります	

第5号議案

令和7年度予算（案）の件

1. 一般会計

<収入の部>

(単位：円)

科 目	R6 年予算	R7 年予算	摘 要
1 前年度繰越金	133,831	89,077	
2 地区費(継続登録)	1,021,600	984,200	20,000×19 団+600×1,007 人
3 地区費(追加登録)	50,000	50,000	100 人(前期1人600円、後期1人400円)
4 県連回付金	150,000	150,000	
1) 訓練研修費	30,000	30,000	BS講習会
2) 緑の募金還付金	20,000	20,000	緑の募金補助金
3) その他還付金	100,000	100,000	ワクワク県連・日連補助金
5 雑収入	10,000	10,000	寄付金、祝儀、利息等
6 積立金から取り崩し	100,000	150,000	
合 計	1,465,431	1,433,277	

<支出の部>

科 目	R6 年予算	R7 年予算	摘 要
1 訓練研修費	350,000	300,000	
1) 指導者講習会・研修会	20,000	20,000	BS講習会、資料他
2) スカウト技能章講習会	30,000	20,000	技能章研修会、資料他
3) コミッショナー研修会	300,000	260,000	研修費、研修所参加費、LT&ALT 各派遣
2 行事費	140,000	140,000	
1) 組織拡充支援金	100,000	100,000	体験会支援金
2) ベンチャー行事費	20,000	20,000	議長会等
3) ローバー行事費	20,000	20,000	地区ローバース活動費
3 事業費	865,000	785,000	
事業費			
組織・拡充委員会	50,000	50,000	旅費、活動費、地区機関紙、HP 維持費
指導者養成委員会	40,000	40,000	旅費、活動費、資料代他
スカウト進歩委員会	100,000	50,000	旅費、活動費、資料代
行事・国際委員会	100,000	80,000	旅費他、各部門ラリー
総務委員会	80,000	60,000	防災キャラバン、旅費、活動費、資料代他
コミッショナー	300,000	300,000	地区トレーニングチーム、救急チーム経費
事務局	20,000	20,000	スカウトあいち掲載他
運営費			
会議費	150,000	160,000	会場使用料
事務・通信費	15,000	15,000	振込手数料
慶弔費	10,000	10,000	
4 備品購入積立金	0	0	資材、機材、備品
5 大会関係積立金	0	0	
6 大会支援金	100,000	150,000	スカウトラリー
7 予 備 費	10,431	58,277	
合 計	1,465,431	1,433,277	

2. 特別会計

科 目	前年残高	R7 年収入	R7 年支出	次年度繰越	適 要
1 備品購入積立金	588,830	0	0	588,830	
2 大会関係積立金	1,151,000	0	150,000	1,001,000	
合 計	1,739,830	0	150,000	1,589,830	

資料

令和6年度 隼スカウト・富士スカウト 伝達者名簿 (取 得 順)

隼スカウト

春日井第2団 一宮 圭吾
北名古屋第1団 高木 琢磨
日進第2団 西脇 昂輝
日進第2団 水野 樹
日進第2団 得能 悠斗
日進第1団 眞野 陽斗

富士スカウト

該当者 なし

令和6年度運営委員会出席状況表

組織・拡充委員会

	出席/開催	出席率
犬山第5団	4/5	80%
犬山第7団	5/5	100%
大口第1団	3/5	60%
尾張旭第1団	4/5	80%
春日井第2団	5/5	100%
春日井第4団	5/5	100%
春日井第5団	4/5	80%
春日井第8団	3/5	60%
春日井第10団	5/5	100%
北名古屋第1団	1/5	20%
北名古屋第2団	1/5	20%

	出席/開催	出席率
清須第1団	3/5	60%
江南第3団	5/5	100%
小牧第1団	4/5	80%
小牧第2団	5/5	100%
瀬戸第1団	5/5	100%
瀬戸第6団	3/5	60%
長久手第1団	5/5	100%
日進第1団	4/5	80%
日進第2団	5/5	100%
平均出席率		79%

スカウト進歩委員会

	出席/開催	出席率
犬山第5団	1/6	16%
犬山第7団	5/6	83%
大口第1団	5/6	83%
尾張旭第1団	4/6	66%
春日井第2団	6/6	100%
春日井第4団	5/6	83%
春日井第5団	4/6	66%
春日井第8団	3/6	50%
春日井第10団	6/6	100%
北名古屋第1団	5/6	83%
北名古屋第2団	2/6	33%

	出席/開催	出席率
清須第1団	1/6	16%
江南第3団	5/6	83%
小牧第1団	4/6	66%
小牧第2団	3/6	50%
瀬戸第1団	0/6	0%
瀬戸第6団	6/6	100%
長久手第1団	5/6	83%
日進第1団	5/6	83%
日進第2団	5/6	83%
平均出席率		66%

	出席/開催	出席率
犬山第5団	3/5	60%
犬山第7団	2/5	40%
大口第1団	1/5	20%
尾張旭第1団	1/5	20%
春日井第2団	2/5	40%
春日井第4団	4/5	80%
春日井第5団	2/5	40%
春日井第8団	5/5	100%
春日井第10団	5/5	100%
北名古屋第1団	2/5	40%
北名古屋第2団	3/5	60%

	出席/開催	出席率
清須第1団	3/5	60%
江南第3団	3/5	60%
小牧第1団	3/5	60%
小牧第2団	4/5	80%
瀬戸第1団	1/5	20%
瀬戸第6団	1/5	20%
長久手第1団	3/5	60%
日進第1団	2/5	40%
日進第2団	5/5	100%
平均出席率		56%

行事国際委員会

	出席/開催	出席率
犬山第5団	2/5	40%
犬山第7団	2/5	40%
大口第1団	0/5	0%
尾張旭第1団	0/5	0%
春日井第2団	5/5	100%
春日井第4団	5/5	100%
春日井第5団	5/5	100%
春日井第8団	4/5	80%
春日井第10団	4/5	80%
北名古屋第1団	5/5	100%
北名古屋第2団	3/5	60%

	出席/開催	出席率
清須第1団	5/5	100%
江南第3団	4/5	80%
小牧第1団	4/5	80%
小牧第2団	5/5	100%
瀬戸第1団	5/5	100%
瀬戸第6団	2/5	40%
長久手第1団	5/5	100%
日進第1団	5/5	100%
日進第2団	4/5	80%
平均出席率		74%

総務委員会

6 月休会 8 月臨時開催

	出席/開催	出席率
犬山第5団	0/5	0%
犬山第7団	4/5	80%
大口第1団	3/5	60%
尾張旭第1団	1/5	20%
春日井第2団	4/5	80%
春日井第4団	4/5	80%
春日井第5団	2/5	40%
春日井第8団	3/5	60%
春日井第10団	4/5	80%
北名古屋第1団	5/5	100%
北名古屋第2団	4/5	80%

	出席/開催	出席率
清須第1団	2/5	40%
江南第3団	3/5	60%
小牧第1団	5/5	100%
小牧第2団	3/5	60%
瀬戸第1団	5/5	100%
瀬戸第6団	3/5	60%
長久手第1団	5/5	100%
日進第1団	4/5	60%
日進第2団	1/5	20%
平均出席率		65%

■ラウンドテーブル出席表

2024 尾張東地区

	BVS					CS					
	第1回	第2回	第3回	第4回	出席率	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	出席率
	6月23日	9月22日	12月22日	2月23日		5月26日	6月23日	9月22日	12月22日	2月23日	
犬山5	×	×	×	×	0	○	○	○	×	×	0
犬山7	○	○	○	○	100	○	○	○	○	○	100
大口1	×	○	○	×	50	○	○	○	×	×	60
江南3	○	○	○	○	100	○	○	○	○	○	100
北名古屋1	○	○	○	○	100	○	○	○	○	○	100
北名古屋2	○	○	○	○	100	○	○	○	○	○	100
清須1	×	×	×	×	0	○	○	○	×	○	80
小牧1	○	○	○	×	75	○	○	○	×	○	80
小牧2	×	○	○	×	50	○	○	○	○	○	100
春日井2	○	○	○	○	100	○	○	○	×	○	80
春日井4	×	×	×	×	0	×	×	×	×	×	0
春日井5	○	○	○	○	100	○	○	○	○	○	100
春日井8						×	○	×	×	○	40
春日井10	×	×	×	×	0	×	○	×	×	×	20
瀬戸1	○	×	×	○	50	×	○	×	○	○	60
瀬戸6	○	○	○	○	100	×	×	×	×	×	0
尾張旭1											
長久手1	×	×	×	×	0	×	○	○	×	×	40
日進1	○	×	○	○	75	○	○	○	○	○	100
日進2	×	×	×	×	0	○	○	○	○	○	100
隊 数	18					19					
出席数	10	10	11	9	40	13	17	14	9	13	66
出席率	56	56	60	50	56	68	89	74	47	68	69

「-」は隊登録がないことを示す

	BS								出席率
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	第7回	第8回	
	5月26日	6月23日	7月28日	9月23日	10月27日	11月23日	1月19日	2月23日	
犬山5	×	○	○	○	○	×	×	×	50
犬山7	○	×	○	○	×	○	○	×	63
大口1	×	×	×	×	×	×	×	×	0
江南3	○	○	○	○	○	×	×	○	75
北名古屋1	○	○	○	○	○	×	○	○	88
北名古屋2	×	○	○	×	○	×	×	×	38
清須1	×	×	×	×	×	×	×	×	0
小牧1	×	○	○	○	○	○	○	○	88
小牧2	○	○	○	○	○	×	○	○	88
春日井2	○	○	○	○	○	×	×	○	75
春日井4	○	○	×	○	○	×	○	×	63
春日井5	×	○	○	×	○	○	○	×	63
春日井8	×	○	×	○	○	×	×	×	38
春日井10	○	○	○	○	○	○	○	○	100
瀬戸1	○	○	×	○	○	○	○	○	88
瀬戸6	×	×	×	○	×	×	×	×	13
尾張旭1	○	×	×	○	○	×	×	×	38
長久手1	×	○	×	○	○	○	○	×	63
日進1	○	○	○	○	○	○	○	○	100
日進2	○	○	○	×	○	×	○	○	75
隊 数	20								
出席数	11	15	12	15	16	7	11	9	87
出席率	55	78	60	75	84	35	55	45	54

	VS							RS				
	第1回	第2回	第3回	第4回	第5回	第6回	出席率	第1回	第2回	第3回	第4回	出席率
	5月26日	7月28日	9月29日	11月24日	1月19日	2月23日		5月26日	8月25日	11月24日	2月23日	
犬山5	○	×	×	×	×	×	17	○	○	×	×	50
犬山7	○	×	×	○	×	×	33	○	×	×	○	50
大口1	○	×	○	×	×	○	50	×	×	×	×	0
江南3	×	○	×	×	○	○	50	○	×	×	○	50
北名古屋1	○	○	○	○	○	○	100	○	○	○	○	100
北名古屋2								○	○	○	×	75
清須1	○	×	×	×	×	×	17	○	×	○	×	50
小牧1	○	○	○	○	×	×	67	○	○	×	○	75
小牧2	×	○	×	×	×	○	33	×	○	○	×	50
春日井2	○	○	×	○	○	○	83	×	○	×	×	25
春日井4	○	○	○	×	○	×	67	○	×	×	×	25
春日井5	○	○	○	○	○	×	83	○	○	○	○	100
春日井8	○	○	○	○	○	○	100	○	×	○	○	75
春日井10	×	×	×	×	×	×	0	×	○	○	×	50
瀬戸1	RT	RT	○	○	○	RT	50	○	○	○	○	100
瀬戸6	○	○	×	○	×	○	67	×	×	×	○	25
尾張旭1												
長久手1	×	×	×	×	○	○	33	×	×	×	×	0
日進1	○	○	○	○	×	○	83	×	×	×	×	0
日進2	RT	○	×	○	×	RT	33	○	○	○	○	100
隊 数	18							19				
出席数	12	11	8	10	8	9	58	12	10	9	9	40
出席率	67	61	44	56	44	50	54	63	52	47	47	53

令和6年度表彰履歴(敬称略)

日本連盟	かっこう章	大 谷 茂	北名古屋第1団 総務委員長
	ボーイスカウト振興 国会議員連盟表彰	舟 橋 佳 代	大口第1団 ベンチャー隊長
	特別年功章	5年	15名
		10年	10名
		15年	11名
		20年	7名
		50年	船 橋 鐸 夫 小牧第1団
	隊褒彰綬	15年	犬山第7団 ビーバー隊
			犬山第7団 カブ隊
			犬山第7団 ボーイ隊
			犬山第7団 ベンチャー隊
			犬山第7団 ローバー隊
		30年	江南第3団 ローバー隊
		35年	長久手第1団 ビーバー隊
		40年	北名古屋第2団 ベンチャー隊
			長久手第1団 ベンチャー隊
			春日井第4団 ローバー隊
			春日井第8団 ベンチャー隊
		50年	日進第1団 ボーイ隊
			小牧第2団 カブ隊
			小牧第2団 ボーイ隊
		55年	小牧第1団 カブ隊

愛知連盟	県連感謝状 配偶者感謝状	小川 喜久子	瀬戸第1団 団委員長 故小川孝氏夫人
	スカウティング褒章	井 上 勲	小牧第2団 団委員長
		河 村 武 人	北名古屋1団 副団委員長
	県連特別有功章	村 瀬 行 雄	春日井第8団 団委員長
		加 藤 太	春日井第8団 副団委員長
	県連有功章	大 谷 茂 之	北名古屋第1団 ローバー副長
		柴 田 賢 一	北名古屋第2団 カブ隊長
		大 島 茂 樹	春日井第2団 団委員長
		佐 藤 哲	春日井第2団 ベンチャー隊長
		山 守 浩 之	春日井第2団 団委員
		小 林 香 織	春日井第8団 カブ隊長
		友 松 英 樹	春日井第8団 団委員
		松 原 久美子	瀬戸第1団 ボーイ副長
		伊佐治 伸 庫	日進第2団 カブ副長
		浅 野 人 映	日進第2団 ビーバー副長
		福 岡 健 一	日進第2団 ビーバー副長

令和7年度トレーニングチーム/救急チーム/WEB チーム
尾張東地区トレーニングチームメンバー

			NO	役 務	氏 名	所 属 団
地 区 ト レ ー ニ ン グ チ ー ム	県 連 ト レ ー ニ ン グ チ ー ム	日 本 連 盟	1	リーダートレーナー	中村 倫之	小牧第2団
			2	リーダートレーナー	中谷 洋	小牧第1団
			3	リーダートレーナー	山口 貴美江	春日井第10団
			4	リーダートレーナー	古木 啓介	小牧第1団
			5	リーダートレーナー	中谷 真里	小牧第1団
			6	リーダートレーナー	森 裕次	瀬戸第6団
			1	副リーダートレーナー	椎葉 育美	江南第3団
			2	副リーダートレーナー	日比野 良治	江南第3団
			3	副リーダートレーナー	鈴木 寛	春日井第5団
			4	副リーダートレーナー	小林 弘幸	春日井第8団
			5	副リーダートレーナー	栗本 雅仁	小牧第1団
			6	副リーダートレーナー	植木 治雄	北名古屋第1団
			7	副リーダートレーナー	水谷 優介	春日井第2団
			1	県チームスタッフ	古川 秀晴	犬山第7団
			2	県チームスタッフ	石川 圭祐	北名古屋第2団
			3	県チームスタッフ	小川 恭平	瀬戸第1団
			4	県チームスタッフ	中川 大輔	北名古屋第1団
			1	地区チームスタッフ	石原 昌幸	江南第3団
			2	地区チームスタッフ	小林 香織	春日井第8団
			3	地区チームスタッフ	佐藤 精	日進第2団
			4	地区チームスタッフ	柴田 賢一	北名古屋第2団
			5	地区チームスタッフ	小林 佑	春日井第2団
			6	地区チームスタッフ	梶谷 光平	長久手第1団
			7	地区チームスタッフ	宮田 光一	北名古屋第1団

尾張東地区救急チームメンバー

No	役 務	氏 名	所 属 団
1	チーフ	片 谷 文	春日井第5団
3	事務局	水 谷 優 介	春日井第2団
4	チーム員	藤 井 孝 之	小牧第2団
5	チーム員	船 橋 菜 月	春日井第2団
6	チーム員	松 原 彩 香	瀬戸第1団
7	チーム員	都 築 優 斗	犬山第5団
8	チーム員	吉 川 満	春日井第2団
9	アドバイザー	串 崎 武 志	春日井第10団

尾張東地区 WEB チームメンバー

No	役 務	氏 名	所 属 団
1	スタッフ	椎葉 浩志	江南第3団
2	スタッフ	石原 昌幸	江南第3団

令和7年度各部門RTの研修内容（予定）

BVS部門		
開催日		研修内容
6月	29日	BVS 部門におけるスカウト教育法の活用について
9月	21日	プログラム立案とテーマ・目的・目標・ねらい
11月	16日	BVS 部門の後継者育成
2月	15日	今年度の評価反省と年間プログラム策定

CS部門		
開催日		研修内容
5月	25日	・定形外訓練（DL 講習会）延長プログラム 充実した組集会実施に向けた研修①
6月	29日	・夏場に向けた活動研修 安全管理/楽しい夜プログラム研修
9月	20～21日	・充実した組集会実施に向けた研修②
11月	16日	・隊集会プログラム検討 ロープを使ったプログラム研修
2月	15日	・本年度の評価反省及び次年度の活動について

BS部門		
開催日		研修内容
5月	25日	・菊章取得に向けたポイントの研究 ・スキルトレーニング（ハイキング技能）
6月	22日	・充実した班活動に向けた課題研究 ・スキルトレーニング（食用植物と有毒植物）
7月	27日	・夏場の安全な野外活動の研究 ・スキルトレーニング（モールス）
9月	21日	・班活動を充実させる班長訓練の研究 ・スキルトレーニング（計測）
10月	19日	・定形外訓練（スカウト技能研修会）
11月	23日	・班活動を充実させるプログラム展開の研究① ・スキルトレーニング（ロープ、手旗）
1月	18日	・班活動を充実させるプログラム展開の研究② ・スキルトレーニング（BP 祭に向けて）
2月	22日	・今年度の評価反省と次年度に向けて ・スキルトレーニング（ロープ）

令和7年度各部門RTの研修内容（予定）

VS部門		
開催日		研修内容
5月	18日	・新進級課程の研究 ・前年度3月実施のベンチャースカウトのつどいのフォローの研究
7月	27日	・夏場の活動に関して怪我や熱中症等夏場に起こり得る傷病に対する知識、応急処置を学ぶ。
9月	28日	・定型外訓練（隼研修会）を受けて各隊のスカウトへの支援方法の研究
11月	23～24日	・定型外訓練（Go For Adventure）を受けて尾張富士特別野営に向けた移動キャンプの指導方法の研究
1月	18日	・定型外訓練（Go For Adventure）を受けてベンチャー部門の野営の研究
2月	22日	今年度の評価反省と次年度に向けて

RS部門		
開催日		研修内容
5月	18日	ローバースカウトハンドブック、リーダーハンドブックを読み解こう！ 地区ローバースって何やってんの？ ゲスト：地区ローバース幹部
8月	24日	ローバースカウトのコミュニケーション 今どきのSNS、オンライン事情 ARCって何やってんの？ ゲスト：ARC運営委員
12月	14日	ベンチャー部門と協働して上進率UP！ どんな活動をする？VSは上進する？ RCJって何やってんの？ ゲスト：RCJ県代表
2月	22日	ローバー隊のあるべき姿 ローバー隊憲章を作ってみよう 地区RS、ARC、RCJを活用しよう。 ゲスト：各団のローバースカウト

令和7年度 継続登録数 集計表

団名	登録数 合計	スカウト 合計	指導者 合計	団委員	ビーバースカウト 指導者	ビーバースカウト	カブスカウト 指導者	カブスカウト	ボーイスカウト 指導者	ボーイスカウト	ハイチャ 指導者	ハイチャ	R-バー 指導者	R-バー スカウト	登録数 合計
犬山第5団	30	13	17	7	1	2			4	4	2	3	6	1	30
犬山第7団	35	13	22	8	2	1	3	6	1	3	4	2	3	2	35
大口第1団	15	5	10	7	1	1					2	1	2	1	15
江南第3団	67	42	25	7	8	5	5	7	13	3	7	1	9	2	67
清瀬第1団	33	16	17	7	1	2	7	4	5	2	2	1	1	1	33
北名古屋第1団	50	23	27	12	4	2	7	5	4	3	3	3	5	2	50
北名古屋第2団	42	20	22	7	1	4	4	4	11	5	1	1	3	1	42
瀬戸第1団	37	17	20	7	3	3	5	4	4	4	3		2	2	37
瀬戸第6団	73	38	35	17	4	2	12	8	3	5	9	3	5		73
長久手第1団	51	24	27	14	4	3	4	3	8	2	4	2	4	3	51
日進第1団	39	19	20	8	3	1	4	7	4	2	6	2	2		39
日進第2団	74	46	28	13	3	3	13	4	19	5	5	2	6	1	74
小牧第1団	91	55	36	16	7	4	21	9	15	4	7	2	5	1	91
小牧第2団	50	30	20	10	2		9	4	9	3	3	2	7	1	50
春日井第2団	87	49	38	21	4	4	19	7	14	4	5	1	7	1	87
春日井第4団	127	88	39	11	4	5	18	5	40	10	8	3	18	5	127
春日井第5団	29	16	13	5			4	5	7	1	1	1	4	1	29
春日井第8団	26	14	12	6			4	2	6	2	1	2	3		26
春日井第10団	51	32	19	13	8	2	3	2	12	2	3		6		51
令和7年度合計	1,007	560	447	196	60	44	142	86	184	64	76	32	98	25	1,007

令和6年度合計	1,036	572	464	201	64	51	148	87	179	68	86	28	95	29	1,036
令和5年度合計	1,089	609	480	207	67	48	190	98	154	65	97	33	101	29	1,089
令和4年度合計	1,129	647	482	211	61	46	193	97	182	65	105	34	106	29	1,129
令和3年度合計	1,176	676	500	215	75	43	185	111	200	71	95	32	121	28	1,176

令和6年度	初期	最終	追加	R6-R7年度比較
				R6初期 R7初期
	36	36	0	-6
	32	37	5	3
	19	19	0	-4
	72	75	3	-5
	38	43	5	-5
	50	50	0	0
	41	41	0	1
	36	39	3	1
	69	72	3	4
	63	66	3	-12
	46	50	4	-7
	71	75	4	3
	89	98	9	2
	53	54	1	-3
	85	90	5	2
	131	138	7	-4
	29	31	2	0
	29	31	2	-3
	47	51	4	4
	1,036	1,096	60	-29

R7合計-R6合計	-29
R6合計-R5合計	-53
R5合計-R4合計	-40
R4合計-R3合計	-47

組織拡充委員会 活動報告

令和6年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		組織拡充委員会 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和6年4月～令和7年3月)
目(1)-①	入団案内資料やチラシなどの情報共有を進め、各団のより良い資料作成に寄与し入団者増加に繋がります。	・ワクワク自然体験あそびなどのチラシを共有しました。	・チラシ共有の効果も限定的で、課題解決につながり難い状況でした。
目(1)-①	「はやぶさ」の一般向け紙面版発行。県連HPの地区・団コーナーも原稿募集します。	・はやぶさの一般向け紙面化ついて、取材・編集体制について検討しました。県連HPの地区・団コーナーの原稿依頼し掲載できました。	・はやぶさの一般向け紙面化ついて、取材・編集体制が整わず実現できませんでした。
目(1)-①	組織拡充または広報等に関する講演会・講習会を開催します。	・講演について検討しました。	・テーマの具体化ができず、今年度は講演会の開催は見送りました。
目(1)-①	日連HP団情報ページの活用・更新を推進します。PRのためのSNS活用も促進します。	・運営委員会にて、日連HP団情報ページを見て頂き、紹介文や画像の登録をお願いしました。	・日連HP団情報ページにて、紹介文や画像の無い団は1個団減って6個団になりましたが、全国掲載に至りませんでした。
目(1)-①	地区内における少人数団への支援事業を展開します。	・少人数団の勧誘行事の状況など情報収集しました。	・近隣団との合同での勧誘行事を実施頂きましたが、成果が上がりませんでした。
重(1)-②	ワクワク自然体験あそび等の勧誘行事を促進します。	・ワクワク自然体験あそび県連補助分・日連補助分・地区体験行事補助を案内し実施促進しました。地区スカウトラリーにもワクワク自然体験あそびブース設置しました。	・ワクワク自然体験あそび県連補助分は18個団実施、日連補助分は延べ8個団と地区で実施、地区体験行事補助は4個団実施でした。

スカウト進歩委員会 活動報告

令和6年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		スカウト進歩委員会 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和6年4月～令和7年3月)
目(2)-①	4/1 施行「新BS・VS進歩課程の改定」内容を深く理解し、新進歩制度に対応した支援を展開します。【新規】	新進歩課程での面接実績 BS菊刈外章申請数：8名 単・富士刈外章：0名	新進歩課程の申請書の記入の注意事項周知を24年1月に実施した。対象者が少ないが来年度は「定着」することを目指し外進級手帳の確認や共有を委員会活動を通じて継続する。
目(2)-①	地区内から20名のBS菊スカウト章、10名の単スカウト章、3名の富士スカウト章を輩出できるよう支援、認証の面接を実施します。【継続】	菊スカウト章面接28名（BS23名/V5名）、単スカウト章6名、富士スカウト章0名	昨年度と比較してBS部門の菊刈外、単刈外章の申請数が多くなりBS部門での進歩促進が感じられたが富士は大幅な減少となった。また、面接申請書や進級手帳の不備、記章取付の誤り、たすきの着用など半数で何らかの不備がある現状がある。団内でのマンネリ感からか団面接でのチェック機能があまり働いていない印象であり来年度改善を図りたい。来年度面接については基本対面を希望多く必要に応じて対応する方針とする。
目(2)-①	「いけばとれるヨ～」ではなくスカウトそれぞれに対応した技能章講習会参加を支援し、より多くのスカウトがスキル向上できるようにします。【継続】	パイオニアリング章：6月9日（日）13名、消防章：中止（自衛隊調整難）、防災章12月22日（日）開催4名、救急章1月12日（日）6名	パイオニアリング章講習会では予想に反して多くの参加があったが、防災・救急章講習会では時節柄もあるがコロナの影響による直前キャンセル等で講師側のモチベーションにかかわる参加人数となった。募集対象範囲（級）の見直しや開催時期の見直しを図る必要があると感じられた。最近、野外技能系の講習が少なくコロナ禍による野営技術低下の改善や隊長間の交流・レベル確認も含め来年度は野営、野外炊事章を実施の方向としたい。
目(2)-①	各団1名以上の宗教章の取得に向け支援します。【新規】	仏教章：7名（大谷、臨済宗）、神道	副委員長の寺院への献身かつ継続的な取り計らいにより年平均レベルの取得者を輩出することができた。一方で日本連盟から直接記章等伝達発送されてしまう形態となっているため団からの取得のフィードバックがない。ルール作りが必要。
目(2)-①②	各団のスカウト委員がBVS～VSまでの進歩目標数を設定、毎月の団委員会で進捗フォローできる体制を目指します。【継続】	県連進歩状況報告 24年10月提出、25年4月予定	残念ながら24上期集計では20ヶ団中2ヶ団の提出遅延、2ヶ団の提出がなく県連集計で4ヶ団のデータが欠損した。特定の団に固定化傾向あり各会合を通じて指導させていただいた。25年4月度の24年度年間集計では改善を期待したい。年度末に単申請が多くでたが、富士申請が0となってしまったためVS隊長との連携強化、具体的には隊長側～委員会側の課題等を共有し改善する場を来年度設定したい。BVS、CSについてはカブ部門からの上進率が低下傾向にあるが、進捗状況はコロナ禍前までに回復してきたことが伺えた。
目(2)-②	夏季野営大会、スカウトラリー、VSフォーラム、ハイアドベンチャーなどのプログラムを通じ地区RS・隊指導者と連携、進歩の促進を支援します。【新規】	BSラリー11月3日（日）開催、VSフォーラム：6月8日（日）5名、8月23日（金）～25日（日）県連VSフォーラム派遣2名、3月16日アフターフォーラム6名、愛知ハイアド2025：0名	地区フォーラムは少人数で活発な意見交換ができたものの参加率が30%と極めて少なかった。実施時期の再考、団フォーラムの実施を再考する必要があると感じられた。県連ハイアドも参加数0でこちらも上記とあわせてVS隊長との連携強化により改善を図りたい。

指導者養成委員会 活動報告		
令和6年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		年度総括まとめ
番号	小項目	(令和6年4月～令和7年3月)
目(3)-①	ウッドバッジ研修所・実修所の参加が不安なく出来るよう、トレーナーが一貫した支援が出来る環境をコミッショナーと協働で作ります。	コミッショナーの指名の下で担当トレーナーの一貫した支援が行われた。定型訓練参加者については継続して支援を行い、上級コースへ導く環境を作って行きたい。
目(3)-②	県連事業及び他の委員会の事業と協働できる事が有れば積極的に関わってグローバルリーダーの育成に努めます。	RSから指導者への育成及び、若手指導者養成についてのプログラムを県連で展開をしたが少人数の参加者であった。若手指導者養成プログラムについては継続展開をしてコミュニケーションを図る場として提供をしたい。
目(3)-③	定型外訓練のみで無く人間力、資質向上に繋がる他団体、個人の研修及びセミナー等の情報を提供し積極的に参加することを促し、社会人としての資質アップに寄与します。	消防署員による正しい指導の下で知識と技能を習得することがスカウトと活動を共にする上で必要で有りまた、人間力向上に繋がるので専門家を迎えての研修を継続して行いたい。
重(3)-②	定型訓練、定型外訓練等にコミッショナー、トレーニングチームと協働して支援をします。	定型訓練、定型外訓練の当地区参加者は145名でした。昨年度は定型訓練当地区参加者62名、定型外訓練参加者100名でしたので、本年度は定型訓練34名増、定型外訓練51名減となりました。スカウトコース、課程別研修の参加者が増えたのは、コミッショナー、トレーニングチームの協働のもと支援ができたので今後も継続します。しかし、定型外訓練の参加者が少なく2事業が中止になった事は反省と課題が残りました。
重(3)-③	ラウンドテーブルの場を活用して部門に特化した研修を、コミッショナー、トレーニングチームに提案をして支援をします。	ラウンドテーブルを活用して行う研究会、研修会が充分に実行できなかった。来年度は、ラウンドテーブルにおいて研究会、研修会が行われるようにコミッショナー、トレーニングチームと協働して支援をしたい。

行事・国際委員会 活動報告		
令和6年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		年度総括まとめ
番号	小項目	(令和6年4月～令和7年3月)
重(1)①	日本連盟・愛知連盟主催「海外派遣事業」・「国内事業」の広報と参加に向けた支援を行います。	・どんぐり交流会、未来の森づくり事業に、委員5名が奉仕しました。 ・県連新城古川野営場の整備に、委員その他7名が奉仕しました。 - 地区内事業への奉仕・河尾張合同野営（蒲郡市：8月9日～15日）へ委員10名が奉仕しました。 ・スカウトラリー（小牧市市民四季の森：11月3日）へ委員6名が奉仕しました。
		・フェスタ当日の業務を委員2名が行いました。
重(1)③	「緑の募金」「スカウトの日」活動参加と支援を行います。	・「緑の募金」を17個団が実施し、301131円を県連盟へ送金しました。 ・「スカウトの日」活動を14個団が実施し、日本連盟へ活動報告しました。
重(3)③	活気ある運営委員会を実施します。 具体的には、委員会の中で各団の活動報告を行います。	・全国がワクワク体験自然遊び、各団体験集会等の活動内容を発表し、今後の行事の参考とすべく、評価反省（質疑応答）を行いました。
重(4)	安全管理活動として「野舎営届」「県外旅行申請書」の提出管理を行います。	・地区内全国の県外旅行申請・野舎営届は、委員会内で展開します。各団の委員から確認ください。 ・各団から提出される活動計画書（野舎営届提出時）に、安全管理者の選任と記載が行われました。

総務委員会 活動報告		
令和6年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		年度総括まとめ
番号	小項目	(令和6年4月～令和7年3月)
目3-③	地区（尾張ブロック）でのS f Hセミナーの開催します。	年度途中で、日連から「基本編」「実践編」の提示がありましたが今回も、隊長中心として「実践編」で開催しました。次年度は、総務委員会の研修も兼ねて11月に基本編を開催します。
重3-①	全国防災キャラバンを開催します。	特に、春日井地区の協力で開催できました。来場者数は103名と例年よりは少なめでした。次年度も開催を予定しております。
	防災ボランティアコーディネーターを養成します。	今年度は、主任講師も代わり、能登半島地震へボランティア活動支援で活躍した人で、ボランティアセンターの形態が少しずつ変わってきているので、機会があれば、参加すること推奨します。
	防災士の育成に努めます。	募集要項配信しましたが、地区からの参加者は、ありませんでした。次年度は、RS・指導者へ参加促進をします。

地区ローバース 活動報告

令和5年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		地区ローバース 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和6年4月～令和7年3月)
目(1)①	各隊から1名以上、全構成員の20%以上の参加者を集め、RS間の仲間の輪を広げ、情報共有の活性化を促します。	今年度は主催事業として定例会を4回、およびその他主催事業を下記の通り2回を行った。 2月11日には、他地区のRSとの交流の機会として、尾張東西地区ローバース合同運動会を尾張西地区ローバースと共催した。 3月4-5日には、構成員間の交流と他部門奉仕の技能向上のために冬季アクティビティとして、スキー訓練を行った。	全隊からの参加は叶わなかったが、年間を通して12個隊から計30名のRSおよび同年代の指導者が参加した。 第2回定例会では、実際に災害ボランティアとして能登地震の被災地に行った構成員の活動報告や、地域の自主防災組織の方をお招きし、ご指導のもとHUG（避難所運営ゲーム）の体験や、災害に備えるうえでRS年代に求めることを伺った。 第3回定例会では、RS年代で疎かになりがちな野外料理技能の確認を兼ねて、ダッチオープンを使った野外料理を行った。 第4回定例会では、構成員のニーズを聴取して来年度の活動計画を立てた。
目(3)③	将来、指導者としてプログラム作成に生かせるように、地区ローバース幹部メンバー以外にも、構成員の10%に地区ローバース主催事業や関連事業に参画を促し、企画、計画のノウハウを得る機会を設けます。	スカウトフォーラム、三河尾張野営、BS講習会、尾張東西地区ローバース合同運動会、冬季アクティビティにて幹部外からの参画があり、幹部会とともに計画、運営をした。	主催事業2件、地区事業への奉仕2件に計12名が準備段階から参画した。
重(3)①	構成員が今日までに培ってきた知識・技能を後輩スカウトへ生かすために、指導者としての活動を奨励し、各研修修了者から未修了者の構成員に活動報告の場などをもうけることによって指導者訓練への参加を強く推奨し、構成員の20%のBS講習会修了、10%のWB研修所修了を目指します。	BS講習会を10名、WBSCを10名が修了した。 また、定例会にて活動報告を行い、参加を推奨した。	各団での指導者訓練への参加推奨もあり、多数の構成員がBS講習会およびWBSCを修了した。

コミッショナー 活動報告

令和6年度 ボーイスカウト愛知連盟 尾張東地区		地区コミッショナーグループ 活動内容	年度総括まとめ
番号	小項目		(令和6年4月～令和7年3月)
コミッショナー	令和5年度の方針を継承し、「スカウト数の現状維持以上」を目標として、スカウトが活動に対して「たのしい」、保護者の「満足度」を意識し、各隊指導者への支援を実施します。また、入団につながる「スカウト活動」を意識し、RT（団協議会を含む）、定形外訓練、個別支援を行い、新たな取り組みで「結果」を出していきます。	RT内で各隊指導者に「たのしい」プログラム作成のための研究を行います。 複数組、班での活動する機会を増やしていきます。 定型外訓練を年6回実施し、指導者のスキルアップを目指します。	令和7年度の加盟登録員数を見ると2月の継続登録審査の時点では若干のプラスを見込める数値だったが、3月の登録業務の段階では減少へと落ち込んでいる。最後の最後で上進しないスカウトが増えたのではと考える。上進しない理由は色々あるかと考えるが、スカウトの「たのしい」と保護者の「満足度」が充分ではなかったと予測される。今年度は定型外訓練も参加者が集まらず流れてしまったものもあるので、来年度は参加者が参加しやすいようにラウンドテーブルと紐付けて実施するようにし、参加者の日程的な負担を減らしていく。
	WBSC、課程別研修の終了率の向上と、実修所（団委員実修所を含む）への参加を進め、隊運営能力の向上を目指す。	RT内で定型訓練の周知をして、参加者を募る。また、参加者には速やかに支援トレーナーの選任を行い、参加者、トレーナー、コミッショナー間で連携をとりながら、参加者へのフォローを行っていく。	WBSCに18名、WB実修所へ3名地区内指導者が参加いただけた。また、団委員研修所へ2名、団委員実修所へ2名、課程別研修へものべ22名に参加いただいた。
	スカウト数、地域特性等を考慮し、地区が主導し複数団による活動を後押しし、複数組、班での活動が行えるようにし、「たのしい」を実現できるための一つの方法として取り組みます。	三河尾張合同野営、スカウトラリー、合同くま訓練などを実施する	三河尾張合同野営やスカウトラリーを行うことで、複数班での活動をスカウトに展開でき、「たのしい」を体験してもらえたと感じる。また、指導者にも複数班での競い合いをすることの良さを、実感していただけたと感じる。合同くま訓練は旧北エリアで実施したが、今後は他のエリアでも展開できるように支援していく。来年度は各部門のラリー、VS部門では移動野営を実施し、多くの仲間と出会い競いあえる機会を提供していく。
BVS	RTの中で魅力的なプログラムの作成や、基本的なビーバー隊のセレモニーの運営ができるよう、交流と研究を行います。	予定を変更して、BVS部門の訓育、プログラムに必要な要素等について研修を実施	BVS部門におけるスカウト教育法への取組。部門としての訓育の方法について考察があまりされていない。他の部門の方法などごちゃごちゃになっているように見受けられた。部門としての考え方を中心として進めたので、次年度以降プログラムが改善することを願っている。
	研修所・実修所への参加啓蒙を促し、参加者への支援を行います。	呼びかけのみ実施。	呼びかけは行ったが、前向きな意見や発言はありませんでした。
	引き続き隊訪問を行い、各団の状況に応じた支援を行います。	出来ませんでした。	隊訪問はできませんでした。各隊隊長と面談を実施し、それぞれの団の現状についてヒアリングしたが、大きな問題は見受けられませんでした
CS	RTにおいて、中途退団者の減少と新規入団者の獲得に向け、魅力ある楽しいプログラムが展開でき、正しいプログラムプロセスの理解に繋がる研修・研究を行います。	CS隊の運営能力向上全般についての取り組みを行います。	充実したプログラム立案の研修として、「ソングの活性化」「安全で楽しい夏季合営に向けた安全管理」「カブ部門主体での月の輪集会」の研究会を実施しました。
	広域的な範囲で少人数団（隊）への合同隊集会の実施に向けたプログラム立案と開催に向けた支援を行います。	CS隊活動の基準に沿った運営を行うためにはどうすればよいのかを考え、支援を行います。	・本年度、地区内で3回の合同隊集会開催を計画し、特別編成組での活動を支援しました。 ・旧地区2グループで令和7年度くまキャンプ開催に向けプログラム立案及び実施に向けた支援を実施しました。
	継続的なインサービス・サポートとし隊訪問を実施します。各隊の状況把握から活性化に繋がる支援を行っています。	継続的な支援を実施します。	インサービス・サポートとして各隊の情報把握及び活性化を目的とした自隊との合同隊集会を計画し、合同隊集会3回、夏季合営1回を開催し、地区8個隊へ支援を実施いたしました。

B S	各隊での隊集会プログラムの基準の維持および充実を図るため、班活動を中心にした個別の隊訪問やラウンドテーブルでの研修等を通じて、各隊を支援します。	BS隊活動の基準に沿った運営を行うためにはどうすればよいのかを考え、支援を行います。	菊章の伝達の機会を利用して、8回の隊訪問を実施しました。
	23年度に取り組んだSCOUTS for SDGs・Earth Tribeの実施状況を確認し、さらなる展開ができるように情報共有と研修を通して、スカウトの社会貢献・奉仕の意識を高めていくことを支援します。	新設された項目への取り組みについて、各隊がどのように取り組み実践させることで、どのようにスカウトの成長を促すかについて取り組みます。	11月に開催した地区スカウトラリーにおいてSDGs、アーストライブをテーマに取り入れたポイントを設置、SDGsを意識した活動を推進しました。
	少人数団への対応、隊指導者のプログラム開発技能支援のために、第2回「スカウトラリー」を11月に実施します。進級課目の改訂に対応したプログラム展開を目指します。	少人数団への対応、隊指導者のプログラム開発技能支援のために、第2回「スカウトラリー」を11月に実施します。	スカウトラリーを11月に小牧市の市民四季の森で実施しました。各隊隊長を中心に6つのグループに分かれ、ポイントプログラムを立案・運営しました。スカウトは登録者数の6割以上が参加し、複数班による班対抗ゲームを体験し、その楽しさ、表彰されるうれしさを感じ、活動のモチベーションアップにつなげることができました。指導者にとっては、他隊指導者と協働しながらプログラム開発・運営に取組み、指導者間の連携や技能向上に資することができました。
	ラウンドテーブルを開催します。進級課目改訂も踏まえ、技能を活用した楽しい集会プログラム計画について研究し、スカウトたちを中心においた集会運営が実践できるように隊長同士での研鑽の場を持ちます。また、地区内のすべてのスカウトが菊章に進級できるよう、取得のためのポイントを整理し、菊章課目に取り組むことで得られるスカウトの成長について研究します。	菊章取得のためのポイントを整理し、菊章に取り組むことで得られるスカウトの成長について研究します。	ラウンドテーブルは結果として計8回実施しましたが、他部門との連携はできませんでした。また、菊章取得に向けたポイント整理や効果的な隊長同士の研鑽については十分な成果をあげられず、今後の課題となりました。
V S	8月に三河地区・尾張地区合同野営大会を開催するにあたり、関係地区の副コミッショナーと協働し、開催地域関係者とも連携しながら、スカウトにとって地域性とスカウト技能を最大限に生かした長期野営の実施を支援します。	合同野営大会へ参加する編成隊の編成、運営を支援します。	大会へは、地区から2個体の編成隊を結成し、45名のスカウト、14名の指導者が参加しました。隊編成や隊指導者の選出においては、若手指導者を中心に編成隊運営の経験を積むことを支援することができました。大会への参加をとおり、各編成隊の指導者によるプログラムの企画立案や運営をとおり、地区内若手指導者の連携や編成隊運営についての研鑽につながりました。
	新進級課目への対応と、進級課目の研究、研修を通して、多くのスカウトが進級できるようラウンドテーブルを活用します。	進級課目の検討と、各隊長への支援（レポート作成）を行います。	新進級課目に関しては、ラウンドテーブルの中でも目を通した。ただ、今年度は旧課程と新課程が両方存在し、隊長方もかなり苦労をしているように感じました。その結果が、単スカウト6名（目標10名）、富士スカウト0名（3名）である。進級に対するモチベーションをどう上げていくかが今後も課題である。
	第3回ボーイスカウト東海4県連盟合同野営大会（3TC）参加スカウトの所属隊の隊指導者に対する指導を行い、スカウトが充実した大会を過ごせるように支援します。	3TCに参加するスカウトの所属する隊指導者に対して、情報提供やアドバイスをを行います。	大会へは、スカウト32名の参加があった。参加隊指導者として、地区ベンチャー隊長の中から5名参加していただいた。情報が少なく、出てくるのが遅い中で、各隊の指導者の皆様の協力で、全員無事に大会を終えることができました。大会終了後も新たにできた仲間とともに活動を行っているという話も聞き、充実した大会になったと感じている。一方で、ベンチャースカウトの野営スキルに関しては少し不安を感じたため、今後定型外訓練等を通して、スカウトへ指導できるようにしていきます。
	SCOUTS for SDGs・アーストライブへの取り組みをプログラムへ組み込めるよう、支援をいたします。	SCOUTS for SDGs・アーストライブの研究を行い、各隊の活度へ組み込めるように支援をします。	ラウンドテーブルの中で、直接SCOUTS for SDGs・アーストライブに関して取り上げることができなかった。しかし、ベンチャースカウトフォーラムやベンチャースカウトの集い等SCOUTS for SDGs・アーストライブに関して考える機会をスカウトに提供することができた。今後はどのように行動に移していくかを検討していきます。
R S	年4回RTを開催し以下の事項に取り組む ・RCJ,ARC,地区ローバースの活動に関する情報共有 ・セーフフロムハームに関する研修 ・SCOUT for SDGsやアーストライブへの取り組みに関する研修 ・ローバースカウト部門とローバーリングについての理解促進と研究 ・各国でのローバースカウト年代の活躍促進とサポート方法の研究 ・定型・定形外訓練へのローバースカウトの履修促進	各行事、訓練への支援を行います。	年4回RTを開催しRCJ・ARCおよび地区でのRS活動を共有すると共に、日本連盟で新たに作成されたローバースカウトハンドブック並びにローバースタートセミナーについて研究を行った。また、WBスカウトコースへのRSの参加を地区ローバースとの協同でとして奨励し10名のローバースカウトの参加を得られた。
	地区ローバースアドバイザーとの協働により以下の事項に取り組む ・ローバースカウトの定型訓練履修を促し将来の指導者の育成につなげる。 ・ローバースカウトの防災ボランティアコーディネーター養成講座への参加を促進する。 ・ローバースカウトの定形外訓練への参加を奨励し、必要な知識・技能・心構えを備えた魅力的なスカウトを育成する。	地区RSアドバイザーとの協働を行います。	地区ローバース活動を通してRSの定型・定形外訓練参加を促し指導者育成に努めスカウトコースへのローバースカウト10名の参加を果たしたが、防災ボランティアコーディネーター養成講座へのRSの参加には繋がらなかった。
	地区行事へのローバースカウトの参加促進と他部門との連携により、ローバースカウトが他部門のスカウトの前で活躍する機会を設け、VS以下の年代の上進意欲を高め、中途退団者の低減に寄与する。	VS部門と連携し、RSへの上進率向上について取り組みます。	地区BSスカウトラリー、地区スカウトフォーラム奉仕を通して、他部門のスカウトの前で活躍する機会を通して、格好良いRSの姿を示した。特にスカウトフォーラム運営に当たってはファシリテーターとしての講習を実施したうえで本番に臨むことでより格好良いRSの姿をVSに魅せられるように準備を進めた。
団 担 当	団協議会・団訪問、情報提供及び団委員長サミット等による団活性化の支援をします。目標全個団	7回/年 団協議会 団委員長サミット1回 開催	団協議会により団委員長と連絡を取り合い、団活性化の支援援助 団委員長サミットにより各団の最優先事項を認識頂きました。
	文科省事業を含む募集活動計画の確認と必要な支援の手配：全団	募集活動の計画収集・支援・見学	募集活動の調査から募集活動の必要性を理解頂き、必要な支援を手配実施しました。
	スカウト数カテゴリーD(ランク1)の団の活動に支援：6個団	団訪問・体験集会等の支援援助	募集活動の支援・見学によりボーイスカウトのPRと体験会への呼び込みアドバイスや支援をしました。

開催会議名称				開催日（基本計画）	時間	場 所（部屋名）		7/4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	8/1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月			
地区諸会議	地区協議会(総会を含む)				18:00	指定場所		13									25			12							
	地区委員会			指定月 第 2 日曜日	19:00	レディヤン 研修室			11	8	13		14		9	14	11		8・22			10	14	12			
	団委員長会議			指定月 土曜日	19:00	レディヤン 研修室	5												7		4						
	団協議会（☆指定場所）			指定月 指定日	17:30	指定場所			10	8	13		15		9		11										
	団サミット			指定月 第 2 土曜日	9:00	指定場所								4													
	企画会議			指定月 指定時間	17:30	レディヤン 第1集会室	20	18	22	20	24	28	26	30	20	18	21	15		19	24	21			23		
	地区コミ会議			指定月 指定時間	指定	レディヤン 第1集会室	13				5			19		21	24	7（終日）	8								
	団担当コミ会議			指定月 指定日時	17:30	レディヤン 第1集会室	5・13	11	8・22	5		14	19	9	20	24	7（終日）	8		4	10	14					
	地区名誉会議			指定月 指定日時	17:30	レディヤン 第1会議室																					
	組織・拡充委員会			指定月 指定日	19:00	レディヤン 第4会議室			18		20		7		22			7				17		19			
	総務委員会			指定月 指定日	19:00	レディヤン 第2会議室	6			22			7		22				7		5		6				
	指導者養成委員会			偶数月 第 3 日曜日	19:00	原則Web開催		20			15		17		19		21		15		19		21				
	スカウト進歩委員会					原則Web開催		20			22		17		19		21		15		19		21		16		
	行事・国際委員会					レディヤン 第4会議室	20			15		17		19		21		15		19		21		16			
	R T	BVS 隊			指定月 第4日曜日	19:00	レディヤン				29			21		16			15								
		CS 隊									25	29			20-21		16			15							
		BS 隊									25	22	27		21	19	23		18	22							
		VS 隊									18		27		28		23		18	22							
		RS 隊						指定月 指定日時			18				24				14		22						
	地区ローパス会議				指定月 指定日時		指定場所	6		21				未定					1		5						
	地区団登録審査				地区		レディヤン 指定場所												15・21								
スカウト対象	地区・技能章（防災章）			スカウト進歩委員会	未定	小牧or春日井市内で調整								○未定													
	地区・技能章（救急・介護）				未定	小牧or春日井市内で調整					救 8						介 18										
	地区・技能章（野営・野外炊事）				未定	犬山or日進市内で調整									○未定												
	県連・技能章（電気・IT等）				未定	未定（別院会館orイブルなごや）					14-15																
	県連・技能章（測候）				未定	未定（仮：新城吉川野営場）										8-9											
地区トレーニングチーム会議				地区 T T	() はチーム会議		20	31	15	21オン	31	28	19		6オン				15								
指導者対象	定型 外 訓練	DL研修会			指導者養成委員会		拡大版RT レディヤンかすがい			25																	
		表彰グッズ研修会					拡大版RT レディヤンかすがい					29															
		安全講習会					レディヤンかすがい						13														
		集研修会					拡大版RT レディヤンかすがい							28													
		スカウト技能研修会					拡大版RT レディヤンかすがい								19												
		Go! For Adventure					拡大版RT レディヤンかすがい										22-23										
	定型 訓練	県連定型外フォローアップ研修					BVS課程 未定							20													
		県連定型外フォローアップ研修					VS課程 未定							20-21													
		ボイススカウト講習会7-11					小牧市ふれあいセンター							7													
		ボイススカウト講習会7-16					小牧市東部市民センター														8						
		WB研SC愛知第24・25期 基本型					新城 吉川野営場				3-6																
		WB研SC愛知第26期 基本型					新城 吉川野営場										31-3										
		WB研 課程別研修 BVS CS BS VS					豊田青少年センター										30										
		団委員研修所 第46期					新城 吉川野営場								13-15												
		ウッドバッジ実修所CS課程181期					新城 吉川野営場		26-29																		
		コミッショナー任務別研修 地区コミ課程愛知第4期					新城 吉川野営場										22-24地		10-11任								
		日本連盟 全国大会					福岡県・アクオス福岡、ほか			24-25																	
		愛知連盟 年次総会					名古屋国際センター				29																
		JOTA/JOTI													17-19												
県連RS主導 吉川改修VS部門プロジェクト					新城・吉川野営場						○																
富士スカウト面接（面）・顕彰（顕）					（仮）イブルなごや					面17			面16			面17			顕8-面14								
県連進歩状況報告（9/末現在、3/末）					ー									○					○								
S進歩委員会ーVS隊長懇談会					（仮）レディヤンかすがい				○																		
全国植樹祭6周年記念行事					愛知県森林公園								25														
ビーバーカブラリー															9												
スカウトラリー																7											
尾張富士特別野営2026																			20-22								
県連 スカウト★フェスタ2025					尾張地域 清須市清洲市民センター								5														
県連 ハイアドベンチャープログラム2026					新城市周辺														19-22								
県連 第16回韓国ソウル北部連盟RS緑化プロジェクト派遣					韓国・ソウル市内とその周辺			9～11																			
県連 SDGs Aichi EXPO					愛知県国際展示場								3～4														
愛知ローパームート																			13～15								
県連 防災ボランティアコーディネーター養成講座					未定										15												
全国防災キャラバン					春日井市予定									未定													